

名古屋サロン

元気である。本当に元気が良い。多分、日本で一番元気の良いのが、愛知県であり、名古屋であり、名古屋の人である。Jネットの名古屋の人も負けずに元気だ。

九月二日(土)午後六時。例年通り名古屋駅の真上にある名古屋マリriottアソシアホテルの十五階コーヒーション「パーゴラ」で名古屋サロンが開催された。これも例年通り肝煎の尾原勝利さんの開会の挨拶で開宴。乾杯。

高級ホテルのレストランで飲み放題、食べ放題で、Jネットから千円の補助があるものの、一人四千円はお得である。次いで、太田会長の挨拶の後は、これも例年通り、楽しい語らいの場となった。

私は日頃から、名古屋に住む人を尊敬している。というより、むしろ畏敬の念を

持つていると言った方が良いかも知れない。

私が、最初に名古屋へ来たときに、名古屋駅を名駅(ヌイエキ)といい、東新町(正しくはヒガシシンマチ)を「トウシンチヨウ」という名古屋の人々の超効率の良さに驚かされた。これは多分、発想の豊かさ、思考の自由さからのものだと私は思う。

その結果、名古屋には「ひつまぶし」「味噌煮込み」「天むす」、と他にはない、独自の食べ物が限りなくある。

旧妻太村の飛田新田出身で、名古屋について骨を埋めてしまった友人が元気だった頃、名古屋で「みそかづ」を「馳走してくられたことがあった。食べるまで、味噌に衣をつけて揚げたものだと思込んでいた私は、中に肉が入っていたので大変驚いたことを思い出す。

出張の度に名古屋の喫茶店のモーニング

サービスには感心させられるし、手羽先チエーン店は東京をはじめ全国を凌駕しつつある。

越後から名古屋に来られた方々は、異文化の中で大変な苦勞があったのだと思う。でも、ついには、名古屋の良さを自身の中に吸収し、名古屋を制覇された方々の集まりといっても良いと思う。

日本の中心が名古屋の方へ移動しつつある今日、越後上越の本当に目ざすべき方向を教示してくれるのは、名古屋に住むJネットの方々なのだと思う。

Jネット名古屋。万歳。

(編集部)



